

★イタリア出身の人気女性ベーシスト & コンポーザー★ イラリア・カパルボ【Ilaria Capalbo】



Photographer : Paolo Soriani

♪ 現在の拠点スウェーデンのストックホルムや故郷イタリアのナポリの新型コロナウィルスの影響はいかがですか？

状況は世界的にとてもしばしいわ。スウェーデンは他のヨーロッパの国々よりは緩い処置を取っていたけど、それでも大部分のコンサート会場やフェスティバルはキャンセル、閉鎖、または延期されたわ。ナポリの状況はあまり変わらないけど、数週間前にイタリア政府が国全体のロックダウンを実施したの。でも、少なくとも表面的なレベルでは、状況はどちらの国も良くなり始めているわ。全てのミュージシャンにとって暗い時代で、この危機がアートとコミュニティの重要性を再考する機会となることを心から願っているわ。それと、そのうち母国のイタリアに帰れることを願っているわ。

♪ 昨年 11 月にコスモス（KÓSMOS）名義で最新アルバム『バック・ホーム』をリリースされましたが、このアルバムについて聞かせて下さい。

『バック・ホーム』は、ピアニストのレニー・トリスターノの音楽と芸術への賛辞で、彼の作品は、トリオとして、また個々のミュージシャンとして私たちに大きな影響を与えて来たわ。トラックリストは、トリスターノの原曲を元に、私たちのスタイルに合わせて再編集して制作したの。リスナーは、この再編集したトリスターノの有名なスタンダード「Lennie's Pennies」や「Digression/Detour」と「Line Up」みたいに私たちがアレンジした楽曲も楽しむことができると思うわ。「Holism」（ステファノ・ファルコン作曲）、「Hadiyya」（ジウセッペ・デ・アレッシンドロ作曲）や

本誌「Vol.52」の Basswoman Now! や「Vol.55」の表紙にも登場してくれたイラリア・ナポリ出身の女性ベーシスト&コンポーザー、イラリア・カパルボ。国境を越えて様々なアーティストと共演し、2019年4月には山中千尋フィーメール・トリオ“ザ・スフィアズ”のメンバーとしてイラリア・ツアーに参加。同郷のピアニスト、ステファノ・ファルコンとのデュオ、トリオ・ユニットのコスモス（KÓSMOS）等でも活動中で、2019年11月にコスモス名義で最新アルバム『バック・ホーム』をリリースした。ベースの腕前と共に佇まいもクールでカッコいい。現在、スウェーデン・ストックホルムを拠点に活動しているイラリアに話してもらった。待望の来日に期待！

【2020年5月取材・文：加瀬正之】

「Strömmar」（私の作曲）は独自のオリジナル曲で、それぞれの異なる作曲スタイルを堪能出来ると思うわ。これらの曲のアイデアは、トリスターノのテクニクやモチーフを元に触発されたの。

♪ トリオ・ユニットのコスモスとステファノ・ファルコンとのデュオ・ユニットについて聞かせて下さい。

私とステファノ・ファルコンとのコラボレーションは、ミュージシャンになるという選択があった限り遡る。私たちはミュージシャンとして、また人間として共に生きて来たの。共通点も多くて、同じ音楽学校で学んだり、ステージ上とステージ外でも多くの経験を共有して来たのよ。ファーストアルバムをデュオとしてレコーディングしたのは生半可な気持ちではなかったわ。この本質的で危険ともとれるデュオにはバランスをとる必要があった。そのためには、お互いのミュージシャンシップを認め合って、団結することが大事なの。コスモスは、ステファノ・ファルコン（ピアノ）、ジウセッペ・デ・アレッシンドロ（ドラム）、そして私のベースで構成されたトリオ。インストルメンタリストであることを除けば、私たち全員がこのプロジェクトの共同リーダーおよび作曲家なの。「バック・ホーム」は、私たちトリオの最初のリリース曲よ。あれだけ数年一緒にプレーしていて、時間の経過と共に、人間レベルとプロレベルで強力な関係を築いて来たにもかかわらずこれが最初のセッションだったの。相互の知識と親和性が苦労のないコミュニケーションを補うので、私がこのトリオの一員であることは光栄なことよ。時々、リハーサルやレコーディングスタジオで、音楽が鳴っている間、自分の考えやアイデアをテレパシーでほとんど



【KÓSMOS】© Titti-Fabozzi



【Chihiro Yamanaka Trio "THE SPHERES"】michele © bordoni

共有できるような気がするの。ステファノとジウセッペはとても創造的で、受容的で繊細なミュージシャンであり、ミュージシャンとしての私たちの活動に深い愛情を持っているわ。彼らは芸術的整合性と努力を重視している。この2人より優れた仲間は他にいないわ！ 秋の2作目のリリースで、また3人でスタジオに入る予定なの。

♪ 山中千尋フィーメール・トリオ“ザ・スフィアズ”でもベースを弾いていますね。

千尋は自然なる力を持った人よ。彼女の演奏はエネルギーに満ち溢れていて、コントロールもしっかりしているわ。彼女とステージを共有することはとても楽しいわ。彼女の演奏は、いつも違うし、いつも予想出来ないの。特に彼女のジャズ・スタンダードやクラシックレ・パートリーをアレンジした曲が大好きで、毎回聴衆を音楽の旅に誘ってくれるの。いつもコンサートから戻るとたくさんのインスピレーションやたくさんの良い思い出を彼女から貰うわ。

♪ 子供の頃に聴いていた音楽やお気に入ったミュージシャンは誰ですか？

予想外に聞かえるかもしれないけど、子供の頃はハードロックやグランジをたくさん聴いて育ったの。ニルヴァーナ、アリス・イン・チェインズ、パール・ジャム、ジェフ・バックリィはその時代のお気に入りの一部ね。またある種のフォークも好きで、アーニー・ディフランコ、ジョニ・ミッチェル、エリオット・スミス、ニック・ドレイクを聴いたわ。今も幅広い音楽を聴いて、発見を楽しんでいるわ。最近の私のお気に入りのミュージシャンは、アンドリュー・バード、ボン・イヴェールとスフィアン・スティーヴンスよ。

♪ ベースを弾ききっかけについて聞かせ下さい。

子供の頃はクラシックギターから始めて、スクールバンドのリサイタルでベーシストが必要だったから、それがきっかけでエレクトリックベースに手を出したの。一目惚れだったわ。この感覚は私の同僚の多くが共感できると思うわ！

10代の頃にジャズを聴くようになって、アップライトベースへの移行はとても自然だったわ。

♪ 強い影響を受けたピアニストを3人挙げて下さい。

まず初めに、ビル・エヴァンス。彼は私がジャズにのめり込み出した時に聴き始めた最初のミュージシャンで、彼のピアノ演奏の奥深さに魅了されたわ。2番目に来るのはキース・ジャレット。このピアニストは2人ともトリオで有名で、私が最も演奏するのが好きな一群でもあるわ。彼らの音楽はリズムセクションとのコラボレーション、特にベースプレーヤーとの長年の相乗効果と強く結び付いていて、彼らが私に大きなインスピレーションを与えてくれたの。レニー・トリスターノが3番目ね。なぜなら彼は音楽に関する鮮明で完成されたビジョンを持っていたから。彼の思想はベーシストやアーティストである私自身の考えに大きな影響を与えてくれたわ。

♪ 共演してみたいミュージシャンは誰ですか？

過去から現在までたくさんいるわ。もし時間を巻き戻すことが出来れば、ポール・モチアンと共演したかった。今後共演したいのは、フレッド・ハーシュとエンリコ・ピエラヌツィかな。

♪ アルバムやライブで歌う予定はありますか？

歌うことは大好きで、特に習慣付けて歌うことが好き。歌うことはイントネーションと自立のためにとても良い練習だと思うわ。ベースで伴奏しながらメロディーを歌えるようになりたいわ。今のところ、レコーディングで決まった計画はないけど、コンサートに時々少し歌の部分を組み込んでいるの。

♪ 作曲はどのようにしているのですか？

作曲は生活のルーティーンの一部として習慣付けているわ。大変な仕事だわ、作曲に取り掛かる度に良い結果



Photographer : Paolo Soriani



【KÓSMOS】Photographer : Paolo Soriani



【The Walker's 2018 Vol.55】

が得られるわけではではないからね。曲がとても簡単にやって来ることあれば、一度に一小節だったこともあるわ（笑）。だけど、作曲の練習が無駄になることはないわ。結局のところ、有名なアーティストのパプロ・ピカソが言ったように、インスピレーションが降りて来たら、自然と仕事に奮闘させられている感じ。

♪ 日本のイメージについて聞かせて下さい。

日本を訪れたことは一度もないけど、ぜひ見てみたいわ。間違いなく私の次の旅行先リストに入ってるわ（笑）！日本は様々なレベルで私を魅了する国だと思う。歴史、伝統、あらゆる形態の芸術、風景、食べ物。私の中の日本の印象は、とても繊細な文化でその全てに美しさを見つけられることかしら。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

文学が大好きで、より一般的には、感情や状況を言葉で呼び起こす芸術が好き。私はフィクションと詩の熱心な読者で、言葉を中心に作曲することがよくあるの。あと料理も楽しんでいるわ。イタリア人として、祖母と母から受け継がれた伝統を簡単に取り入れることができたわ。もちろん食べることもね（笑）！

♪ 今年、新作やソロ作品を発表する予定はありますか？

コスモスとして、今年の年末前にレコーディングセッションを予定しているわ。それとリーダーとしてのレコード制作でも動いていて、2021年の初めに日程が決まると思うわ。

♪ あなたにとってベースとは何ですか？

とても興味深い質問ね。楽器や音楽と一体になる感じがしら。良いベースプレイヤーであるためには、他人との掛け合い、共存が大事だわ。バンド、ソロリストのためにその場にいることを受け入れて、全ての曲を通してメンバーをサポートする必要があるの。音楽の根底で演奏の中に進行とハーモニーの力をもたらし必要があるの。私にとってバンドにいることはとても魅力的な任務だわ。とても安心できる場所だわね。

♪ 最後に The Walker's 読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

みんなの応援とこのインタビューで私の音楽について知ってくれてありがとう！私は世界中により良い時代が来ることを信じているわ。そして、近いうちにあなたの美しい国に演奏しに行けることを願っているわ。

【イラリア・カパルボ オフィシャルウェブサイト】
<https://www.ilariacapalbo.com>

バック・ホーム／BACK HOME
 コスモス／KÓSMOS



JazzIt Records
 (Import CD)

2019年11月30日に
 リリースされたコスモスの
 デビュー・アルバム！

【コスモス オフィシャルウェブサイト】
<https://kosmostrio.com>

ステファノ・ファルコン／Stefano Falcone (ピアノ)
 イラリア・カパルボ／Ilaria Capalbo (ベース)
 ジウセッペ・デ・アレッシンドロ／Giuseppe D'Alessandro (ドラム)

1. Lennie's Pennies
2. Back Home
3. Hadiyya
4. Holism
5. 317 East 32nd St.
6. Strömmar
7. Line Up
8. Digression / Detour